

城郭のイメージ形成過程に関する比較研究

岩手大学工学部

○金子 誠

岩手大学工学部

正会員 安藤 邦

1. はじめに

城郭のイメージ形成過程は、どのように把握できるのであろうか。本研究は、それぞれ個性的な特徴を持つ3城址公園(千秋公園、弘前公園、岩手公園)を取り上げ、イメージ形成に関して、地域的、季節的、年齢別的に分析し、3公園を比較検討することにより、イメージ形成の一観測を見つけようとするものである。

2. 調査地域

各都市の公園を中心として、500mメッシュを組みラシダムサンプリングによって、秋田、弘前市6メッシュ、盛岡市4メッシュを選定した。1メッシュから平均50部のサンプルが回収された。

3. イメージ量の調査方法

被験者数は、秋田市民293名、弘前市民326名、盛岡市民349名である。これらの概要を表1に示す。調査期日は昭和52年5月13日～9月24日に行なわれた。調査方法は前記の被験者に対して、各公園区域内におけるすべての構造物について記憶しているものを自然に直筆描写させる再生方法を用いている。これらに関する調査結果を在住年数別に図1に示す。

4. 解析と結果、及び考察

図1に示された在住年数別のイメージマップを

比較検討すると、千秋公園は、メイストリートと正面の濠付近が在住年数に随伴なく強くイメージされ、在住年数が増すにつれてイメージ量が公園の奥まで伸びていく。弘前公園は、城郭の遺構である天守閣から追手門へ、甲門への公園の中心的歩道に沿ってイメージが拡まり、在住年数が進むにつれてイメージが周囲に広がっていく。岩手公園は、当公園を題目メイストリートと並び川などからイメージが形成され出し、在住年数が進むとイメージが公園の中心に広がっていく。

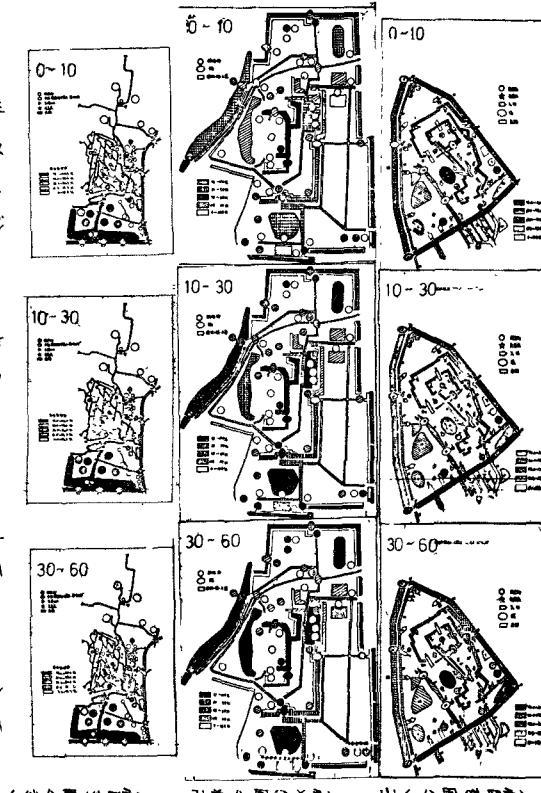


図1 城郭の在住年数別イメージマップ
千秋公園(秋田市) 弘前公園(弘前市) 岩手公園(盛岡市)

表1. メッシュ別在住年数別イメージ数

秋田		弘前						盛岡					
在住年数	メッシュ												
0-10	No.1-6												
10-20	No.7-12												
20-30	No.13-18												
30-60	No.19-24												
60以上	No.25-30												

表2. メッシュ別X²検定の結果

秋田						弘前						盛岡					
No.1 保戸野	No.2 伊勢	No.3 美里	No.4 五所野	No.5 山内	No.6 三郷	No.1 春日町	No.2 田代町	No.3 和賀町	No.4 田代町	No.5 富田	No.6 中野町	No.1 西目屋町	No.2 朝日町	No.3 伊達町	No.4 田代町	No.5 伊達町	No.6 伊達町
No.7 横山	No.8 佐竹	No.9 七ヶ宿	No.10 五所野	No.11 伊勢	No.12 三郷	No.7 田代町	No.8 伊勢町	No.9 五所野	No.10 伊勢町	No.11 五所野	No.12 伊勢町	No.7 田代町	No.8 朝日町	No.9 伊達町	No.10 朝日町	No.11 伊達町	No.12 伊達町
No.13 保戸野	No.14 伊勢	No.15 美里	No.16 五所野	No.17 伊勢	No.18 三郷	No.13 田代町	No.14 伊勢町	No.15 五所野	No.16 伊勢町	No.17 五所野	No.18 伊勢町	No.13 田代町	No.14 朝日町	No.15 伊達町	No.16 朝日町	No.17 伊達町	No.18 伊達町
No.19 保戸野	No.20 伊勢	No.21 美里	No.22 五所野	No.23 伊勢	No.24 三郷	No.19 田代町	No.20 伊勢町	No.21 五所野	No.22 伊勢町	No.23 五所野	No.24 伊勢町	No.19 田代町	No.20 朝日町	No.21 伊達町	No.22 朝日町	No.23 伊達町	No.24 伊達町
No.25 保戸野	No.26 伊勢	No.27 美里	No.28 五所野	No.29 伊勢	No.30 三郷	No.25 田代町	No.26 伊勢町	No.27 五所野	No.28 伊勢町	No.29 五所野	No.30 伊勢町	No.25 田代町	No.26 朝日町	No.27 伊達町	No.28 朝日町	No.29 伊達町	No.30 伊達町

また、城郭のシシボルとしての天守閣、太閤旗を生み出す漆や川、2つの異質空間の境界線となり道路、大きな視覚空間を占める現代建築物などは、主に強くイメージされていることが知られる。

図1に示された構造物のうち城郭のイメージを変容せしめていくものと、都内における種々の建造物である。よってこの建造物に特に着目しイメージの経過を追求する。

リメッシュ別再生百分率の比較

各メッシュの再生個数を各都市における男女の人口構成比を考慮して上位、 χ^2 検定を行った結果を表2である。

それによると3都市19メッシュのうち、新興住宅地、駅裏、交通の不便なメッシュ、在住年数別サレアル数に偏りがあるメッシュを除く15メッシュでは、50%以上の有効水準で一様性があることがわかる。距離と再生百分率の平均値の関係を図2に示す。図に示されるように、公園付近においていくぶん再生百分率の平均値が高く、また傾向は見られないものの、市街化区域内では、ほぼこれらの値は一様であることが知られる。

2)男女別再生百分率の比較

男女別で検定を行うと、この間の一様性は認められず、E。が、さらにこれらに関する相関と回帰直線を検討すると、3都市とも相関係数は0.9以上で直線的関係の有意性は確められた。回帰直線の傾きもほとんどの近く、切片も均一であり、男女のイメージ勾全体としてみれば、非常に関係の強いことがわかった、E。

3)職業別再生百分率の比較

職業別分類は、会社員、自営業、専門技術職、公務員、主婦、無職の6分類とし、過去の研究で在住年数10年前後でイメージ吸収率が変化することが知られているので、各職業における在住年数10年未満と10年以上のサレアル数の比を一定にし、さらに男女比を考慮して χ^2 検定を行った。その結果、サレアルが高年齢者が多く立つてこいる職業と、駅、市役所、墓地などの公園の立地などなどの職場である公務員の2つのグループは他の職業と一緒に性が認められなかった。

4)在住年数別再生百分率の比較

在住年数を0~3, 0~10, 10~20, 20~30, 30~40, 40~50, 50~60に分類し、それらの再生百分率の平均値と在住年数との関係を明らかにあくべこくこれらに関する回帰曲線を求めた。ここで60年以上のサレアル数が少なく信頼度が低いので、除外した。回帰曲線は、べき乗曲線、指數曲線、修正指數曲線の3曲線を比較検討して結果、べき乗曲線が最も信頼度が高いことが知れたので、べき乗曲線を採用した。再生百分率の平均値を(%)、在住年数を(年)としてy = 0.6 $x^{0.6}$ で表わしこれをイメージ経過曲線と呼ぶものとし、この1次微分すらから $\frac{dy}{dx} = 0.36x^{-0.4}$ よりイメージ吸収率を求め図3に示した。その結果、すべての調査地域において、在住年数10年前後で急激なイメージ吸収率の変化が確認された。在住年数60年までの総イメージ量は、約18%と示され、これに関する3都市の比を求めれば、松田 盛岡：弘前 = 1:1.34となり、弘前日松田の約3倍、盛岡の約2倍のイメージ量があることがわかる。弘前日城郭としての遺構である天守閣や門が多數残っており、盛岡はその歴史的景観が高く、秋田は黒い山等しい。よって、現代都市の城跡公園のイメージは歴史的景観が多く残っているほど高く目る傾向があり、城跡公園をその都市のシシボルとして保護するものとするなら、城郭の遺構としての構造物が多いほど望ましいことになる。

